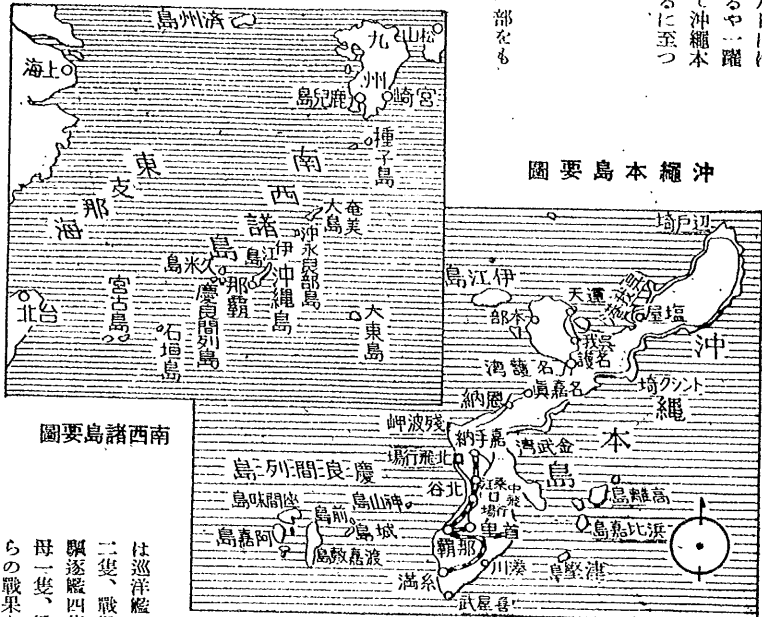


六百艘ぐらゐつたが、二十七、八日には約二千艘となり、更に二十九日に至るや一躍七千艘以上に増大するに至り、かくて沖繩本島への上陸作戦は急速に本格化するに至つたのである。

慶良間列島から遂に 沖繩本島にも上陸

果せる哉、敵は三十一日朝来その一部をもち、慶良間列島より沖繩本島に渡る飛石ともいふべき前島、神山島に上陸を開始し、越えて翌四月一日早朝を迎へるや、敵はいよいよ沖繩本島上陸作戦を展開し、その主力をもつて那覇北方嘉手納西方海面に艦を蔽つて殺到し、嘉手納南方五軒の梁江附近以北の海岸に上陸を開始し、他方同島南端の湊川に向つて上陸用舟艇を集結、同方面より上陸を強行し來つた。

わが皇土の硫黄島が、所在皇軍將兵の悲壯な玉砕と、一億國民の痛憤に、涙をのんで敵手に委ねられてから僅かに三旬、われわれは今も大父祖傳承のわが皇土沖繩島をも、憎むべき敵の脚下に蹂躪されねばならなかつたのである。



であらう。正に舊國以來未曾有の困難が、いまわが皇土の南端に襲ひ來つたのである。

米内海相が「忍び難きを忍び、耐へ難きを耐へて隠忍した」といつたのが海軍部隊も、つひに決然断を決して南西諸島方面に出撃した。陸、海軍空の特別攻撃隊は、還らざる翼を運んで敵艦上に撲殺し、特攻魚雷艇隊も肉弾體當りの華と散つた。そして全軍悉くが特攻隊當りを敢行した結果、四月二日までにわが航空部隊並びに水上部隊によつて收めたる戦果は判明せるのみにても撃沈空母一隻、巡洋艦六隻、駆逐艦二隻、艦種不詳六隻、輸送船一隻、上陸用舟艇十六隻に達し、撃沈若しくは撃破は空母二隻、戦艦一隻、戦艦若しくは巡洋艦一隻にして、撃破したるものは空母二隻、戦艦一隻、戦艦若しくは巡洋艦一隻、輸送船六隻、油槽船若しくは空母一隻、艦種不詳四隻に上る。そして、これらの戦果をも含めて三月二十三日、敵機動部隊が沖繩海面に出現して以来、同方面海上において四月三日現在までに收めたる戦果の概

合は大要次の如く撃沈九十六隻、撃破若しくは撃破九隻、撃破七十二隻にして、撃沈敵の總数は實に百七十七隻以上といふ大重に達してゐる。

航空母艦	四隻
戦艦	三隻
戦艦若しくは輸送船	一隻
大戦艦	五隻
巡洋艦	二十二隻
巡洋艦若しくは驅逐艦	一隻
驅逐艦	十六隻
掃海艇	一隻
輸送船	三隻
艦種不詳	二十四隻
上陸用輸送船	十六隻
撃沈若しくは撃破(九隻)	
航空母艦	二隻
戦艦	一隻
戦艦若しくは巡洋艦	一隻
大戦艦	五隻
撃破(七十二隻)	
航空母艦	三隻
戦艦	二隻
戦艦を含む大型輸送船	十一隻
油槽船若しくは航空母艦	二隻

戦艦若しくは巡洋艦	十二隻
巡洋艦	四隻
巡洋艦若しくは輸送船	一隻
驅逐艦	十二隻
輸送船	十一隻
艦種不詳	十五隻
合計	百七十七隻

英の殘存艦隊も参加 太平洋兵力を總動員

皇軍の擧げた戦果は、かくの如く正に甚大な戦果に達してゐる。然し敵は沖繩本島上陸作戦に無慮一千四百隻の艦船を集結したとさへ發表してをり、若し敵側報道が事實を傳へたものとすれば、皇軍の赫々たる大戦果をもつてしても、尙ほ且つ敵兵力の僅かに一割を居つたに過ぎない結果となり、従つてわが戦果の甚大をもつて、戦局を些かにも樂觀するが如きことがあつてはならぬ。

大宮島のニミツ司令部の發表するところによれば、敵は沖繩上陸作戦の展開に當つては、スプルーアンズ海軍大將麾下の第五艦隊を根拠とし、これに配するにミッチェル海軍中將麾下の空母機動部隊、更にターナー海軍中將指揮の大陸兩用部隊、バックナー陸軍中

將指揮の陸上部隊等に参加せしめ、太平洋兵力の全力を擧げて作戦を強行すると共に、フレイザー麾下のローリング海軍中將の率ゐる英國太平洋艦隊をも参加せしめてをり、かくて敵は世界の二大海軍國たる米英の總力を傾注してわれに肉薄し來つたのである。

そして、こゝでも一考を要することは戦果が戦局を支配するためには、その戦果が敵兵力を根こそぎ撃滅するものであるか、或ひは敵の作戦企圖を粉砕するに十分なるものであるかといふことである。硫黄島において皇軍は、敵の上陸兵力四万五千名中の三万五千名を撃滅して圧倒的戦果を擧げたにも拘はらず、最後には皇軍全員玉砕の犠牲において、つひに同島を敵の占領に供せねばならなかつた現實をわれわれはもう一度再認識せねばならぬのである。

沖繩戦局におけるわが戦果の快報は、その後も引續いて齎されつゝあり、そしてまたわれわれはその赫々たる大戦果が相次いで擧げられることを心から待望し、確信するものである。然し戦局の大勢は寸毫の樂觀を許さず、絶対に重大なものであり、皇國の民族の存亡は正にこの一戦に懸けられてあるといふべきである。